

市立大町総合病院経営強化プラン（概要版）

市立大町総合病院

1 策定の趣旨

総務省が令和4年3月に示した「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」では、地域において公立病院が担うべき役割・機能を改めて見直し、明確化・最適化した上で、地域の医療機関との機能分化・連携強化を通じて、急性期医療から在宅医療までを行う地域の基幹病院として、環境変化に適応した持続可能な経営が必要とされている。

当院が直面する様々な課題に対応し、持続可能な地域医療提供体制を確保するために、令和5年度～令和9年度の5年間を計画期間とする、「市立大町総合病院経営強化プラン」を策定するものである。

2 当院を取り巻く状況

今後、当地域では、75歳以上人口が増加する2030年にかけて、介護需要は増していくと予想されているが、対照的に医療需要は下降線を辿り、医療から介護へとニーズが転換すると考えられる。

大北地域の医療介護需要予測指数（2020年実績=100）



※出典：JMAP（地域医療情報システム）

3 役割・機能の最適化と連携の強化

当院は大北圏域の基幹病院、さらには地域包括ケアシステムの中心を担う病院として、急性期機能から慢性期機能、さらには在宅医療も、24時間、365日の在宅医療体制を確保している。特に2025年にかけて14%の伸びを示すと推計されている訪問診療について、開業医や関係機関との連携を強化し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション等の機能をさらに充実し、住民の生活を支える医療の提供を強化していく。

なお、地域医療構想における推計年である令和7年（2025年）及び本プランの対象期間の最終年度（2027年）における当院の機能毎の病床数は、下表のとおりとする。

病床機能	2023. 4. 1 (A)	2025 年 (B)	現在との差 (B-A)	2027 年 (C)	現在との差 (C-A)	2025 年との差 (C-B)
高度急性期	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床
急性期	103 床	103 床	0 床	103 床	0 床	0 床
回復期	48 床	48 床	0 床	48 床	0 床	0 床
慢性期	48 床	48 床	0 床	48 床	0 床	0 床
休棟・廃止等	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床
介護施設等 への転換	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床
合計	199 床	199 床	0 床	199 床	0 床	0 床

4 医師・看護師等の確保と働き方改革

医師確保に向け、大学医局との関係強化、また、信州大学医学部総合診療科と連携、協力して行っている研修プログラムをはじめとした研修医・専攻医の獲得に向けた教育体制の強化、奨学金等を活用した看護師・コメディカルの採用強化、SNSを始めとした広報活動の強化の取り組みや、民間紹介会社の活用を積極的に進め、確保対策を継続していく。

5 経営形態の見直し

経営形態の見直しについて、これまで新病院改革プランや経営健全化計画に位置付け、当院の経営会議や経営検討委員会、市の庁議や市議会において、議論を行ってきた。それらを踏まえ、現時点においては、現状の経営形態（地方公営企業法全部適用）を継続することとするが、経営形態の在り方については、本計画期間中においても、経営検討委員会を中心に継続的な検討を行う。

6 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取り組み

新興感染症の拡大に対応する事業継続計画（BCP）を作成し、必要な物品の備蓄、役割分担、クラスター発生時の対応方針等も明確化されているなど、医療機能の第三者評価である公益財団法人日本医療機能評価機構による認定審査においても、感染対策の項目で2期連続最高評価（S評価＝他の模範となる項目評価）を取得するなど、感染対策チームを中心に、平時においても院内感染対策の徹底につとめている。

7 施設・設備の最適化

施設整備計画に基づき、施設・設備の適正管理を行うとともに、整備費についても最大限の抑制を図りながら、施設・設備の最適化を進める。

デジタル化に関しては、令和5年度より、電子処方箋の運用開始を目指している。

また、在宅部門を中心に、医療スタッフ間のICTによる連携システムを導入し、地域の患者を中心とした多職種間の情報共有を行うとともに、へき地の医療提供体制の安

定確保に向け、ICTを活用したオンライン診療システムを導入し、小谷村診療所との遠隔医療連携の試験運用を行っている。

8 経営の効率化

「経常収支比率」及び「修正医業収支比率（医業収支から繰入金を除いた収支）」は、総務省のガイドラインにも、目標として定められることが求められている。新たに、「職員一人当たり生産性」などを加えた5項目を、経営効率化の継続的な取り組みを計る重要指標として設定した。また、「病床稼働率」以下の4項目も、本プランにおいても、引き続き数値目標として設定した。

今回の目標値は、令和3年度実績と比較し低い数値となっているが、新型コロナ関連の補助金や加算等が縮小、廃止されることを想定し設定している。

	健全化計画目標	令和3年度実績	目標値
経常収支比率	100.0%以上	108.6%	105.0%以上
医業収支比率	93.0%以上	94.0%	93.0%以上
修正医業収支比率		91.6%	90.0%以上
職員一人当たり生産性	—	10,651 千円	11,251 千円
給与費対医業収益比率	68%以下	68.9%	68%以下
病床稼働率	87%以上	82.5%	90.5%以上
入院患者数	174 人/日	164.1 人/日	180 人/日
外来患者数	380 人/日	377.6 人/日	410 人/日
職員数 正規職員	264 人	267 人	272 人
非常勤職員	119 人	140 人	130 人

9 目標達成に向けた具体的な取り組み

○10年後のビジョン（目指す姿）

<地域にとって>

- ・その人の人生を支える全人的医療を提供する病院

大北地域の中核病院として、医療・健康を軸に介護・生活支援を繋ぐ、大北地域に生まれ・暮らし・亡くなる人と家族の人生を支える病院

<職員にとって>

- ・働きやすく、働きがいのある職場

自分や自分の家族を、自信を持って紹介でき、心理的安全性の高い職場

○基本方針

- ▶市民の健康増進、疾病予防に努めます。
- ▶地域包括ケアシステムの中心を担う病院として、医療・介護・福祉の円滑な連携を推進します。
- ▶市民の皆さんが安心して暮らしていける医療機能の整備・連携を図ります。
- ▶公共性を確保し、合理的で健全な病院経営を行います。

○経営強化への具体的な取組み

①DPC 医療機関別係数の向上

項目	健全化計画目標	令和4年度当初	今回目標
医療機関別係数	1.3803	1.4417	1.4955

②専門医の確保と専門性の活用した新たな患者獲得

項目	健全化計画目標	令和3年度実績	今回目標
病床稼働率	87%以上	82.5%	90.5%以上
入院患者数	174人/日	164.1人/日	180人/日
外来患者数	380人/日	377.6人/日	410人/日

③連携機能、在宅部門の強化

項目	令和3年度実績	目標値
紹介（当院への紹介）率	56.6%	65.0%
逆紹介（当院からの紹介）率	27.4%	32.0%
訪問診療（訪問回数）	969回	1,050回
訪問看護（訪問回数）	4,918回	5,200回

④業務の効率化による時間外勤務時間の削減

項目	令和3年度実績	目標値
時間外勤務時間削減率	25,273時間	前年比5%減

⑤医薬品、診療材料単価の削減

項目	目標値
単価削減率	前年比2%減

10 点検・評価

本プランの進捗状況については、市立大町総合病院経営検討委員会において、年度ごとに点検していくものとする。また、本プランの中間年となる令和7年度に令和5年度～令和6年度の進捗状況及び、令和4年度からの中期経営計画の総括を踏まえ、プランの見直しを含めて再度検証する。

11 市立大町総合病院経営強化プラン 策定スケジュール

令和5年2月 大町市 庁議
 大北医療圏地域医療構想調整会議
 市立大町総合病院経営検討委員会
 大町市議会3月定例会 全員協議会
 3月 県に提出
 職員向け説明会
 4月 プラン取組み開始